

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101496		
法人名	社会福祉法人あさがお福祉会		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	徳島県徳島市大原町外籠47番地の1		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成21年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101496&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは住宅街の中に位置し、窓からは山が見えたり、近くには川が流れていたりする自然に恵まれた環境の中にある。徳島県産の杉を使った木造平屋建ての建物で、廊下や居室は広くゆったりとした造りになっている。職員は画一的なケアになってしまわないように、若年から高齢の職員までがそれぞれの経験や得意分野を活かしながら日々のケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は川沿いの住宅街の中にあり、自然に恵まれている。同じ敷地内にある施設の利用者から野菜の作り方の指導を受け、収穫した野菜は食材として利用している。また木製のイスや机を設置して食事やおやつを楽しむなど、遠出をせずにピクニック気分を味わっている。ユニット間にあるウッドデッキでは、利用者が洗濯物や布団を干している。運営者と管理者は常に連携を図り、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。また職員が研修を受ける機会を確保し、働きながら技術や知識を身につけてレベルアップできるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に、理念にそって全てのケアを行っていることを説明している。毎日の申し送り時に唱和し、また、事業所内やタイムカード上部、名札裏にも記載し、個々で復唱している。運営方針も作成している。	地域密着型サービスとしての理念をつくっている。管理者と職員は理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回の夕涼み会やバザーに地域の方々を招待し、理解を呼びかけている。「あさがお便り」を発行し、利用者個人に関する様子を家族に知らせている。	事業所の行事には、近隣の方たちが大勢参加している。また事業所近辺の道路清掃等に利用者と一緒に参加し、地域の方たちと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉科高校に通う学生やヘルパー2級の実習生を毎年受け入れている。利用者・家族や職員が持ち寄った品物でバザーを行い、得た利益を地域のコミュニティセンターへ寄付している。地域の方に向けた介護教室も実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの現状報告や災害時の対策についての検討などを行っている。運営推進会議をきっかけに、地域の婦人会が不定期にボランティアに来てくれている。	運営推進会議では、行事や職員研修などの取り組みの報告、新型インフルエンザや災害時の対応策についての協議などを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の介護保険被保険者証の更新時に窓口を訪問している。また、制度等の説明会には必ず参加し、新しい情報については細かい部分まで電話等で確認するよう心がけている。	要介護認定更新の機会などに担当窓口を訪問し、事業所の現状を報告したり助言をもらったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間の防犯対策以外は行わないよう取り組んでいる。開閉チャイムの導入や職員の休憩時間の見直し、注意が必要な利用者に対する目配り等についての話し合いを行っている。	日中、玄関の鍵は施錠していない。利用者の思いや能力を活かし、安全に過ごせるよう家族と話し合い、開閉チャイムの利用や職員の見守り、併設事業所の職員との連携などを行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等において勉強する機会を持ち、虐待に関する知識を得ることで防止に努めている。外部研修への参加も積極的に勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等において勉強する機会を持ち、知識を得ることで必要性を再確認している。外部研修への参加も積極的に勤めている。また、家族向けのパンフレットを設置したり、資料を送付したりするなど活用できるよう働きかけを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や来所時には家族の希望や意見を聞き、そのつど十分な説明を行っている。希望や意見があった時には、ケアプランに活かすとともに職員に周知している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情があった場合は書類を作成し、職員間で改善点を話し合うとともに、第三者委員に意見をいただいている。ホーム内にも苦情相談窓口を設置し、また第三者機関等への連絡先を重要事項説明書に記載してホーム内への掲示も行っている。	家族には来訪時や運営推進会議のときに問いかけ、何でも言ってもらえるよう繰り返し説明して関係を築いている。出された意見等は管理者と職員間で話し合い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、個別の職員面談を行い、意見を聞く機会を設けている。その内の1回は、管理者が同席しないで実施している。	代表者や管理者は、利用者と毎日関わっている職員から気づきや思いを聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員の賞与は面談および人事考課を加味して決定している。また、職員の体調や家庭の状況に応じて勤務時間や内容を調整し、できるだけ長く勤めることができるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を年間予定にそって行うことで、職員が研修を受ける機会を確保できるよう配慮している。また外部研修への参加を勤めるとともに、勤務体制や費用を配慮したり、資料を全職員に回覧したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業やグループホーム職員対象の研修などに、積極的に参加している。そこでの交流を通じて、事業所見学などの機会につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも早く落ち着くことができるように、事前に十分な情報収集や対応方法の検討を行っている。生活の場が移動することが本人のストレスにならないように、状態に応じた言葉かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安を抱えて入居することがないように、事前の見学や職員からの説明を重視している。来所時には、本人の状態だけでなく家族の不安やストレスを受け止めることができるような言葉かけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、本人の状態に応じて他のサービスも検討できるようにしている。また、事業所の計画作成担当者だけでなく、必要に応じて居宅介護支援事業者とも連携を取れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ身の回りのことは、利用者の力に応じて行ってもらっている。また、それぞれの利用者ができることを把握し、役割を担ってもらうなど支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に加えて、電話や「あさがお便利」において利用者の状況を細かく報告するとともに、対応の方法や内容を家族と一緒に検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いや親戚の面会を積極的に依頼し、来訪された際には挨拶や言葉かけを行い、希望によっては居室やリビングでゆっくり話ができるように配慮している。できるだけ多く、ゆっくり過ごしてもらえよう面会時間は設定していない。	家族や友人、知人に来訪を依頼し、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。また併設事業所で、馴染みの人たちとお茶を飲んだり、駄菓子を食べたりしながら思い出話を花を咲かせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握して言葉をかけているが、関係は日々変化しているため、注意して観察している。食事や散歩の誘いの言葉かけを仲の良い利用者にお願している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も家族と相談し、不都合がなければ面会やお見舞いなどを行っている。また、退居した後も利用者や家族にはいつでも遊びに来てもらえるようお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にこれまでの生活スタイルや習慣を聞いておき、できるだけそれにそった生活が送れるよう検討している。	全職員が利用者一人ひとりの思いを把握し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所独自のアセスメント表を使用し、職員が把握しやすくしている。利用者や家族に聞き取り調査を行い、入居後も世間話の中から得た内容があれば記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンスで個々の状態を話し合っている。利用者一人ひとりの担当職員を決め、日々の生活の細かな点まで把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の暮らしの中から利用者の意向を聞いたり、家族の来訪時に希望や要望を聞き、それにそった計画を立てるようにしている。カンファレンスには原則として全職員が参加し、自由に意見を出し合っている。	利用者や家族の希望にそった計画を立てている。また変化が生じた場合には、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標の達成率については毎日確認を行い、担当職員が月末に記録をまとめてミーティング時に状態を報告し、検討している。記録の書き方についての勉強会を行い、より良い記録について検討・学習している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症等によって入居が困難な場合には、かかりつけ医と相談しながら病状に応じて早期の退院や毎日の通院等に対応している。かかりつけ医と密に連絡を取り、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員に運営推進会議に参加してもらい、積極的な意見を聞いている。地域の婦人会の方が、不定期にボランティアに来てくれている。避難訓練時には、消防署員が指導に来てくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族に希望するかかりつけ医を確認し、継続して受診できるよう支援している。歯科や眼科もかかりつけの病院を確認し、継続して利用するかどうかを確認し、車椅子等が利用しやすい病院などの希望にも対応している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院の看護師の協力による24時間の医療連携体制を確保している。また、日々の体調管理や年間検査の調整を家族やかかりつけ医と行き、定期的な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には早期に情報提供書を病院に渡している。また入院中は病院や家族から情報をいただいたり、面会に行くことで退院時の情報提供書以外でも状況をスムーズに把握できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者や家族に将来的な考え方の確認を行っている。その後も体調や心身の変化が見られる度に、現状説明や今後の対応を説明したうえで家族の希望を聞いている。	事業所でできることを十分に説明し、状況が変化するたびに話し合いを繰り返している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、法人全体で緊急対応についての勉強会を実施している。内容も各部署でアンケートを実施し、職員の不安や不明な点を具体的に勉強会に活かせるようにしている。その他、事例があればミーティング等にて対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時を想定して年3回(内1回は夜間)、地震時を想定して年1回の避難訓練を実施し、利用者の方にも参加していただいている。内容については見直しを図り、改善点について検討している。	消防署の協力を得て、避難訓練を定期的に行っている。災害時に備えた物品の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人個人が気にしていることについての観察を行い、申し送りやミーティング等で情報交換を行っている。優しく気安い関係を目指し、また馴れ馴れしくなってしまうように心がけている。	本人を傷つけないよう、目立たずさりげない言葉かけを行っている。事務室の窓にはレース模様の紙を貼り、利用者や来訪者から机上の日誌やファイル等が見られないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉だけでなく、表情や反応を観察し、好みや希望を把握している。記録に残すことで他の職員への伝達を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活や現在の利用者の生活パターンを確認し、本人の希望を踏まえたうえで支援方法や内容を定期的に見直している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換時や入浴時には、できるだけ本人に衣類を選んでもらっている。外出時には、おしゃれ着に着替えることができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人個人の身体の状態や希望に応じて調理や配膳、下膳を手伝ってもらっている。利用者に担ってもらう時には言葉のかけ方や感謝の言葉等に注意している。	職員は利用者とともに、調理や盛りつけ、後片付けなどを行っている。利用者と職員は、ともに会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アレルギーや好みを把握し、献立作成の際に確認している。食事や水分摂取量の確認を行い、量によってはかかりつけ医や家族と相談し、おやつやジュースなど好みの品で補給してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居時の確認および定期的な口腔ケアの見直しを行い、個々の状態に応じて歯科医と協力しながら言葉かけや必要な物品の準備など、適切に支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に状態の確認を行い、トイレへの誘導やパット交換の時間等を検討し、個々の状態に応じた段階的な支援を実施している。必要に応じて夜間のみ吸収量の多いパットやリハビリパンツを使用してもらっている。	職員は、トイレでの排泄を大切にした支援を行っている。尿取りパット交換のときには、居室やトイレにさりげなく誘導するなどの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の量に注意し、献立等を検討している。便秘の状態や排泄パターンの確認を行い、かかりつけ医や家族と相談したうえでヨーグルトの摂取やリハビリの導入を検討して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせて業務内容を変更し、対応している。利用者によって入る回数や時間帯、曜日が違うため、そのつど対応している。	利用者の希望に合わせて入浴できるよう、職員のローテーションを工夫している。一番風呂を希望する方が多いため、毎回お湯を入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠や起床、昼寝の時間などを把握して職員間で検討し、個人個人に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬については、薬名や副作用をまとめた物を各ユニットに設置し、必要時にはすぐに確認できるようにしている。薬が追加になった時には特に注意して観察を行い、服用方法が複雑な薬は薬入れにも掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターの水やりや食器洗い、買い物、風呂掃除、おしぼりづくりなど、利用者ができることは積極的に担ってもらっている。お願いする時には言葉のかけ方や感謝の言葉等に注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人個人の状態を把握し、必要物品や車の種類等それぞれに応じた方法で外出支援を行っている。	併設事業所の喫茶スペースに出かけたり、戸外に設置しているテーブルとイスで食事や外気浴を行ったりしている。また買い物など利用者の希望に合わせた外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、病院などへの支払いには預かり金を使用し、買い物時には利用者が所持している金銭で支払っている。ホームで預かっている金銭は毎月、領収書を出納帳のコピーとともに家族に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットのリビングおよび事務所に外線電話があり、本人が希望した際には使用できるようになっている。葉書や切手に関しても購入および郵送の支援を行っている。支援の際は家族に相談している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者で行った行事等の写真や塗り絵の作品が展示しており、入居者やご家族の話題にもなっている。住宅街の中に建物があり、敷地も広いため騒音などは感じられない。毎月のカレンダーは季節感のある題材を利用者の方と共に作成し、掲示している。	玄関には靴を着脱しやすいよう椅子を設置し、台所は車椅子や歩行器の方でも入れるスペースを設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビングだけでなく、畳の空間や中庭のベンチ、玄関の椅子などで自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、必要な家具を持ち込んでもらっている。ホームで用意しているのは押し入れと枕灯、エアコン、加湿器となっている。必要に応じてベッドや滑り止めマットなどレンタル製品の紹介やポータブルトイレの設置などを行っている。	居室には使い慣れた家具やタンス、お位牌や思い出の品などが持ち込まれている。また写真を飾るなど、その人らしい居室づくりを行っている。居室が分からなくなる方には家族と相談し、入り口に本人の顔写真を掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は完全なバリアフリーとなっており、廊下の幅や手すり、トイレの入り口等は車椅子でも生活しやすい造りとなっている。各居室前には本人の写真や名札を掲示する等、わかりやすい表示をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に、理念にそって全てのケアを行っていることを説明している。毎日の申し送り時に唱和し、また、事業所内やタイムカード上部、名札裏にも記載し、個々で復唱している。運営方針も作成している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	年1回の夕涼み会やバザーに地域の方々を招待し、理解を呼びかけている。「あさがお便り」を発行し、利用者個人に関する様子を家族に知らせている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉科高校に通う学生やヘルパー2級の実習生を毎年受け入れている。利用者・家族や職員が持ち寄った品物でバザーを行い、得た利益を地域のコミュニティセンターへ寄付している。地域の方に向けた介護教室も実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの現状報告や災害時の対策についての検討などを行っている。運営推進会議をきっかけに、地域の婦人会が不定期にボランティアに来てくれている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の介護保険被保険者証の更新時に窓口を訪問している。また、制度等の説明会には必ず参加し、新しい情報については細かい部分まで電話等で確認するよう心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間の防犯対策以外は行わないよう取り組んでいる。開閉チャイムの導入や職員の休憩時間の見直し、注意が必要な利用者に対する目配り等についての話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等において勉強する機会を持ち、虐待に関する知識を得ることで防止に努めている。外部研修への参加も積極的に勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等において勉強する機会を持ち、知識を得ることで必要性を再確認している。外部研修への参加も積極的に勧めている。また、家族向けのパンフレットを設置したり、資料を送付したりするなど活用できるよう働きかけを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や来所時には家族の希望や意見を聞き、そのつど十分な説明を行っている。希望や意見があった時には、ケアプランに活かすとともに職員に周知している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情があった場合は書類を作成し、職員間で改善点を話し合うとともに、第三者委員に意見をいただいている。ホーム内にも苦情相談窓口を設置し、また第三者機関等への連絡先を重要事項説明書に記載してホーム内への掲示も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、個別の職員面談を行い、意見を聞く機会を設けている。その内の1回は、管理者が同席しないで実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員の賞与は面談および人事考課を加味して決定している。また、職員の体調や家庭の状況に応じて勤務時間や内容を調整し、できるだけ長く勤めることができるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を年間予定にそって行うことで、職員が研修を受ける機会を確保できるよう配慮している。また外部研修への参加を勧めるとともに、勤務体制や費用を配慮したり、資料を全職員に回覧したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業やグループホーム職員対象の研修などに、積極的に参加している。そこでの交流を通じて、事業所見学などの機会につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも早く落ち着くことができるように、事前に十分な情報収集や対応方法の検討を行っている。生活の場が移動することが本人のストレスにならないように、状態に応じた言葉かけを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安を抱えて入居することがないように、事前の見学や職員からの説明を重視している。来所時には、本人の状態だけでなく家族の不安やストレスを受け止めることができるような言葉かけを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、本人の状態に応じて他のサービスも検討できるようにしている。また、事業所の計画作成担当者だけでなく、必要に応じて居宅介護支援事業者とも連携を取れるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ身の回りのことは、利用者の力に応じて行ってもらっている。また、それぞれの利用者ができることを把握し、役割を担ってもらうなど支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に加えて、電話や「あさがお便り」において利用者の状況を細かく報告するとともに、対応の方法や内容を家族と一緒に検討している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いや親戚の面会を積極的に依頼し、来訪された際には挨拶や言葉かけを行い、希望によっては居室やリビングでゆっくり話ができるように配慮している。できるだけ多く、ゆっくり過ごしてもらえるように面会時間は設定していない。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握して言葉をかけているが、関係は日々変化しているため、注意して観察している。食事や散歩の誘いの言葉かけを仲の良い利用者にお願している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も家族と相談し、不都合がなければ面会やお見舞いなどを行っている。また、退居した後も利用者や家族にはいつでも遊びに来てもらえるようお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にこれまでの生活スタイルや習慣を聞いておき、できるだけそれにそった生活が送れるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所独自のアセスメント表を使用し、職員が把握しやすくしている。利用者や家族に聞き取り調査を行い、入居後も世間話の中から得た内容があれば記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンスで個々の状態を話し合っている。利用者一人ひとりの担当職員を決め、日々の生活の細かな点まで把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の暮らしの中から利用者の意向を聞いたり、家族の来訪時に希望や要望を聞き、それにそった計画を立てるようにしている。カンファレンスには原則として全職員が参加し、自由に意見を出し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標の達成率については毎日確認を行い、担当職員が月末に記録をまとめてミーティング時に状態を報告し、検討している。記録の書き方についての勉強会を行い、より良い記録について検討・学習している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症等によって入院が困難な場合には、かかりつけ医と相談しながら病状に応じて早期の退院や毎日の通院等で対応している。かかりつけ医と密に連絡を取り、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員に運営推進会議に参加してもらい、積極的な意見を聞いている。地域の婦人会の方が、不定期にボランティアに来てくれている。避難訓練時には、消防署員が指導に来てくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族に希望するかかりつけ医を確認し、継続して受診できるよう支援している。歯科や眼科もかかりつけの病院を確認し、継続して利用するかどうかを確認し、車椅子等が利用しやすい病院などの希望にも対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院の看護師の協力による24時間の医療連携体制を確保している。また、日々の体調管理や年間検査の調整を家族やかかりつけ医と行い、定期的な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には早期に情報提供書を病院に渡している。また入院中は病院や家族から情報をいただいたり、面会に行くことで退院時の情報提供書以外でも状況をスムーズに把握できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者や家族に将来的な考え方の確認を行っている。その後も体調や心身の変化が見られる度に、現状説明や今後の対応を説明したうえで家族の希望を聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、法人全体で緊急対応についての勉強会を実施している。内容も各部署でアンケートを実施し、職員の不安や不明な点を具体的に勉強会に活かせるようにしている。その他、事例があればミーティング等にて対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時を想定して年3回(内1回は夜間)、地震時を想定して年1回の避難訓練を実施し、利用者の方にも参加していただいている。内容については見直しを図り、改善点について検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人個人が気にしていることについての観察を行い、申し送りやミーティング等で情報交換を行っている。優しく気安い関係を目指し、また馴れ馴れしくなってしまうように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉だけでなく、表情や反応を観察し、好みや希望を把握している。記録に残すことで他の職員への伝達を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活や現在の利用者の生活パターンを確認し、本人の希望を踏まえたうえで支援方法や内容を定期的に見直している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換時や入浴時には、できるだけ本人に衣類を選んでもらっている。外出時には、おしゃれ着に着替えることができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人個人の身体の状態や希望に応じて調理や配膳、下膳を手伝ってもらっている。利用者に担ってもらう時には言葉のかけ方や感謝の言葉等に注意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アレルギーや好みを把握し、献立作成の際に確認している。食事や水分摂取量の確認を行い、量によってはかかりつけ医や家族と相談し、おやつやジュースなど好みの品で補給してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居時の確認および定期的な口腔ケアの見直しを行い、個々の状態に応じて歯科医と協力しながら言葉かけや必要な物品の準備など、適切に支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に状態の確認を行い、トイレへの誘導やパット交換の時間等を検討し、個々の状態に応じた段階的な支援を実施している。必要に応じて夜間のみ吸収量の多いパットやリハビリパンツを使用してもらっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の量に注意し、献立等を検討している。便秘の状態や排泄パターンの確認を行い、かかりつけ医や家族と相談したうえでヨーグルトの摂取やリハビリの導入を検討して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせて業務内容を変更し、対応している。利用者によって入る回数や時間帯、曜日が違うため、そのつど対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠や起床、昼寝の時間などを把握して職員間で検討し、個人個人に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬については、薬名や副作用をまとめた物を各ユニットに設置し、必要時にはすぐに確認できるようにしている。薬が追加になった時には特に注意して観察を行い、服用方法が複雑な薬は薬入れにも掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターの水やりや食器洗い、買い物、風呂掃除、おしぼりづくりなど、利用者ができることは積極的に担ってもらっている。お願いする時には言葉のかけ方や感謝の言葉等に注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人個人の状態を把握し、必要物品や車の種類等それぞれに応じた方法で外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		家族と相談し、病院などへの支払いには預かり金を使用し、買い物時には利用者が所持している金銭で支払っている。ホームで預かっている金銭は毎月、領収書を出納帳のコピーとともに家族に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		各ユニットのリビングおよび事務所に外線電話があり、本人が希望した際には使用できるようになっている。葉書や切手に関しても購入および郵送の支援を行っている。支援の際は家族に相談している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		廊下には利用者で行った行事等の写真や塗り絵の作品が展示してあり、入居者やご家族の話題にもなっている。住宅街の中に建物があり、敷地も広いため騒音などは感じられない。毎月のカレンダーは季節感のある題材を利用者の方と共に作成し、掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		居室やリビングだけでなく、畳の空間や中庭のベンチ、玄関の椅子などで自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		入居時に家族と相談し、必要な家具を持ち込んでもらっている。ホームで用意しているのは押し入れと枕灯、エアコン、加湿器となっている。必要に応じてベッドや滑り止めマットなどレンタル製品の紹介やポータブルトイレの設置などを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		ホーム内は完全なバリアフリーとなっており、廊下の幅や手すり、トイレの入り口等は車椅子でも生活しやすい造りとなっている。各居室前には本人の写真や名札を掲示する等、わかりやすい表示をしている。		